This is our **Communication on Progress** in implementing the principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.

Communication on Progress

2019年度報告

対象期間 ： 2019年 1月～2019年 12月

原田鋼業株式会社

2020 年 1 月 24 日

◆目次

◆トップステートメント　p.3
◆グローバル・コンパクトの 10 原則　p.4
◆会社概要　p.5
◆２019年度活動の基本方針　p.6
◆人権分野に関する活動報告　p.7
◆労働分野に関する活動報告　p.8
◆環境分野に関する活動報告（その１）　p.9
（その２）　p.10
◆腐敗防止分野に関する活動報告　p.11
◆その他の活動報告　地域貢献を目指して：その１）　p.12
地域貢献を目指して：その２）　p.13
世界の子供たちのために）　p.14

◆トップステートメント

STEEL PRO

国連の提唱する人権、労働、環境および腐敗防止に関する普遍的原則である『国連グローバル・コンパクト』に、当社は 2011 年 1 月から参加しています。

社内外での積極的なＣＳＲ活動の取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

2020 年 1 月 24 日

代表取締役社長

原田憲太郎

◆グローバル・コンパクト10原則

人権	企業は、 原則１：　国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則２：　自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
労働基準	企業は、 原則３：　組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、 原則４：　あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則５：　児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則６：　雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
環境	企業は、 原則７：　環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則８：　環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則９：　環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
腐敗防止	企業は、 原則 10：　強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

◆会社概要

会 社 名	原田鋼業株式会社
本　　社	広島県福山市大門町 5 丁目 6-35　〒721-0926 TEL.084-941-3111（代表）FAX.084-941-1312
資 本 金	3,000 万円
創　　業	昭和 20 年 10 月
設　　立	昭和 41 年 8 月 6 日
年　　商	60 億 2129 万円（53 期）
代 表 者	代表取締役会長　原田 弘人 代表取締役社長　原田 憲太郎
従業員数	120 名（グループ合計）
グループ	福山倉庫運輸株式会社 スチールプロ株式会社 有限会社クリーンライフ

◆2019年度活動の基本方針

STEEL PRO

国連グローバル・コンパクトへの支持を表明して９年目である本年度は、４分野すべてにおける実践的活動を目指すと共に、関連するステークホルダーへのグローバル・コンパクト支持の呼び掛け、及び１０原則に沿った会社運営と社員の意識レベル向上を図る。

また、２０１１年度から取り組んできた「身近で誰もができる活動」の幅を無理のない範囲で広げていくとともに、その活動そのものの定着を目指す。

◆人権分野に関する活動報告

本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
国籍、性別、障害者などに対する差別、偏見の排除	性別による偏見排除のない人事考課の基準作りと、能力、適性に応じた職務、役職、ポストへの適正配置の仕組作り	○	本年度は、女性の主任昇進者が3名誕生。いずれも入社5年未満での社員ですが、その実績を評価されての昇進。 現在、課長職1名、係長職6名で、主任職3名で、女性社員の13名中10名が役職者として勤務。 主任昇進者の内1人は、昨年誕生した女性総合職。 得意の語学力と貿易実務力を生かして、アジア各地のブランチのマネージメントにも参加し、活躍中。 男女の区別のない、能力と適性に応じた人事の一つのモデルケースになりつつある。	継続して、性別による偏見のない人事に取り組むとともに、能力、適性に応じた職務、役職、ポストへの適正配置の仕組作りを目指す。
	評価基準の見直しと評価者への教育	○	筆記試験、実技試験の標準化と複数の試験官による評価と、評価者同志の意見交換による適正評価の仕組作りを継続中。 評価の基準も募集する職務に応じた形での改良が行われてきた。	今後も継続して、評価基準の見直しと評価者への教育を進めていくことで、採用における不公平の排除を目指す。
世界の子供たちが安全で健やかに育つ環境づくり支援	マラリア撲滅運動への参加 エコキャップ運動への参加	○	僅かながらの支援であるが、今年も募金活動を継続することができた。この支援活動は、「身近で誰もができる活動」からという会社の方針に沿った活動の一つで、継続することに重きを置いている。 参照：「その他の活動報告（世界の子供たちのために）」	今後も継続して、支援活動を行っていく。

◆労働分野に関する活動報告

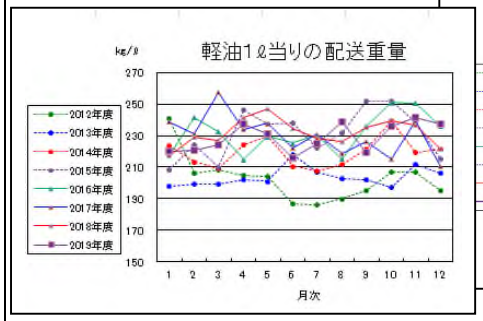
STEEL PRO

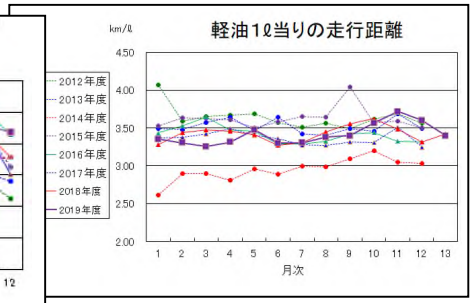
本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
役職、職能レベルの基準作りと教育の仕組み作り	個人別でのキャリア育成を目的とした長期的な教育の仕組み作り	○	昨年度実施した「自己申告シート」による社員個々の将来への希望や目標等に関する調査結果に加え、役職、職能レベルに応じて求められる職務の明確化を進めることで、長期的視野に立った人材育成と環境整備に着手。 従来から実施してきた外部研修を含む技能講習等の受講に加え、外部コンサルタント導入による「継続的な成果を生み出す現場づくり」を目的としたトレーニングの実施等、社員及び組織のレベルアップを目指した新たな取り組みも実施中。	個人別でのキャリア育成を目的とした教育の仕組み作りと生涯キャリアの視点に立った教育の仕組みを目指すと共に、その環境である組織の機能向上を目指した教育と仕組み作りを目指していく。
従業員の多様性の尊重	経験と年齢に応じた働きやすい環境作りと遣り甲斐の持てる仕事の提供	○	現在も現役として経理業務を担当する80歳の社員を筆頭に、70歳代1名、65歳以上6名、60歳以上4名が在籍。 いずれの社員も、部門運営であったり、技術指導であったり、その経験や能力を生かし、責任ある立場で活躍中。	継続して、単に高齢者の雇用に止まらず、その経験と年齢に応じた働きやすい環境作りと遣り甲斐の持てる仕事の提供を目指す。
働きやすい環境の整備	子育て、介護に対する支援制度整備と運用の仕組み作り	○	子育て支援の一環として、実状にあった勤務時間帯の変更、子育てのための半日単位での有給休業制度を導入して6年。社員間の相互扶助の仕組作りも含め、会社を挙げての子育て支援に取り組んでいる。	継続して、働きやすい環境作りとその効果的な運用を目指し、制度の周知とその活用を促していく。 特に、健康管理面では、健康診断結果のフォローとメンタルヘルス対策に力を入れ、健康で働きやすい環境作りを目指す。
	健康管理のための補助制度運用	○	本年度も、保険適用外であるインフルエンザ予防接種の費用補助として、半額を会社が負担。 また、職場環境に対する「社員相談窓口」と併設で、健康診断結果のフォローや医療機関の紹介も始めた。	
	職場環境に対する問題点、要求事項の吸い上げと対応の仕組作り	○	総務部門では「社員相談窓口」としての機能をPR中。 現業部門からの要望を取り入れ、暑さ対策としての空調服支給、現場へのスポットクーラー追加設置、休憩室への冷蔵庫設置等。また、寒さ対策としてのインナースーツ支給等、細かな職場改善にも取り組んでいる。	

◆環境分野に関する活動報告（その１）

本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
輸送効率のアップ	合い積みが可能な配送先の確保と配送ルートの見直しで配送効率のアップ エコ運転の励行	△	昨年度、若干改善された輸送効率だが、「軽油 1ℓ 当たり配送重量」で 1.4%、「軽油 1ℓ 当たり走行距離」で 0.6%と若干下る。	継続して、合い積みが可能な配送先の確保と配送ルートの見直し、及び的確な配車計画の運用で、配送効率の向上を目指す。
梱包資材のムダ削減とリサイクル	梱包用木材の回収率アップと再利用促進	○	ここ数年、生産トン数当たりの木材消費量は横這い状態にあったため、定尺シート用井桁スキットにターゲットを絞り、再度、客先への協力要請を行ったことで、徐々にではあるがリサイクル率は上昇。	継続して、お客様への協力を呼びかけ、リサイクル促進を図るとともに、自社内でも廃材の有効活用やムダ排除を進めていく。

＜輸送効率の 5%アップ＞





○合い積み配送の促進と配送ルートの見直し

昨年、若干改善された輸送効率ですが、今年は少し下がり、2015 年以降の平均的なレベルに戻ったようです。 毎年変化するこの 2つの指標ですが、ここ5年間は、年平均で見ると大きな変動は認めらません。しかし、月単位で見ると、月間の総配送重量に影響され、輸送効率の指標も大きく変動しています。

総配送重量の少ない月での積載率アップまたは維持。これが今後の重要な課題となっています。しかし、これは各車両の稼働率にも影響するため、合い積みが可能な配送先の確保等、営業活動を含めた展開が必要になるようです。

○エコ運転の励行

添乗指導、タコグラフでのチェックなどの個別指導等、地道な活動を継続しています。

＜梱包用木材のリサイクル＞

○梱包用木材のリサイクル

2014 年から始まった大型設備投資も、2018 年の本社工場増築工事完了に続く、2019 年の梱包用木材加工設備の設置で一段落。

設備投資以前は、月間 3,800 トン程度であった鋼板の加工量も、月間 8,000 トンに達するまでに増えてきました。

当然、梱包に使用する木材も増加。特に、定尺シートと呼ばれる標準的なサイズの切板加工量も増加。以前から、この定尺シート用の井桁スキットの回収と再利用は行っていましたが、更なるリサイクル促進を目指し、客先を巻き込んでのリサイクルの仕組作りに着手しております。

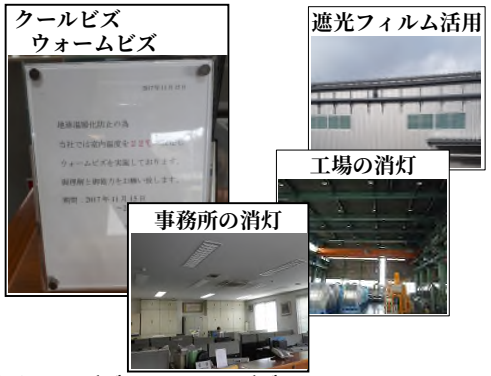
お客様への働き掛けは当然として、社内でも納入先別、サイズ別での回収率把握に着手。より細かい対応を目指し、まずは、数値管理が出来る体制を整えています。

◆環境分野に関する活動報告（その２）

STEEL PRO

本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
工場全体としての生産効率向上と無駄なエネルギー消費削減で省エネ工場実現	クールビズ、ウォームビズ 無駄な照明、待機電力等の削減	○	日常業務の中での電力削減活動は定着。 古いⅡ機器等の省エネタイプへの変更もほぼ完了し、電力削減に寄与。	今後も継続して、省エネ活動、生産効率向上活動を進め、省エネ工場実現を目指す。
	第７工場へ生産集約、作業効率改善、再生可能エネルギー活用で、加工重量当たりの実質購入電力 30%の削減	○	太陽光発電の安定稼働により、加工重量当たりの実質購入電力量は４7%削減。 但し、加工重量当たりの購入電力量は横ばい状態。	

無駄な電力の削減



○クールビズ＆ウォームビズ

エアコンの温度設定は当然。サーキュレータ、扉の開閉、ブラインド及び遮光フィルム活用で太陽光調整等々。

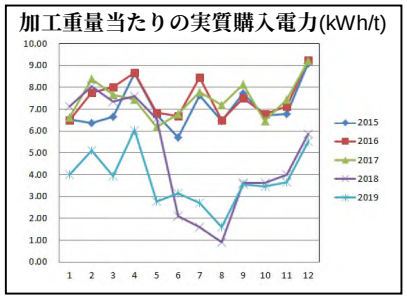
冷暖房効果を高める活動も継続して行っています。

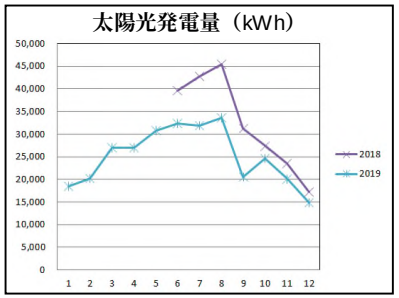
○無駄な電力削減

無用な照明、装置類の電源ＯＦＦ。

待機電力削減に加え、Ⅱ機器等の省エネ機器導入もほぼ完了。来年は、照明機器等の省エネタイプへの変更も計画しています。

＜省エネを目指した工場＞





○省エネ工場を目指して

2014 年から始まった大型設備投資も2018 年で完了。

最先端のスリッターライン、レベラーシャーラインの導入による「高効率な生産設備」、太陽光発電による「再生可能エネルギーの活用」と言うハード面での準備が整いました。

特に、昨年 5 月より開始した太陽光発電も順調に稼働。2019 年度の総発電量は 301ＭＷｈ で、総使用電力量 637ＭＷｈの 47%を太陽光発電により賄ったことになります。

また、加工重量当たりの使用電力量について見ると、各ラインの更新が完了した年 2016 年は 7.46kWｈ／t、2017 年は 7.42 kWｈ／t、2018 年 7.46 kWｈ／t と横這いでしたが、2019 年は 7.18 kWｈ/t と減少しております。

この数値は、加工内容によっても変化する値で、一概には言えませんが、昨年より全社的に取り組んできた作業改善の成果と期待しています。

今後も社員一丸となって、省エネ活動と作業の効率化を進めることで、より「高効率な工場」を目指します。

◆腐敗防止分野に関する活動報告

本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
官公庁等の入札に関する談合への関与禁止	入札への積極的参加の姿勢を示すことにより、業界内での不当な価格操作を排除	○	件数は少ないものの、入札物件に対する直接応札を行うことで、当社の姿勢を業界内に示す活動を継続中。 業界内での公正な競争が行われる下地作りを推進中。	継続して、この活動を進めることで、談合等の腐敗防止を目指す。
得意先や仕入先との適切な関係	仕入先への情報提供と協議の場を設けることで、健全なサプライ・チェーン構築	○	苦情、クレーム等を含む顧客要求について、仕入先、外注先との情報共有を図るとともに、意見交換の場としての定例会議を開催。 2019 年度は、2018 年度に引き続き、発注方法等の改善によるサプライ・チェーン内での仕掛品、製品の運送に関する効率化をテーマに改善を進め、コストアップを最低限に防ぐことができた。	継続して、仕入先への情報提供と協議の場を設けることで、健全なサプライ・チェーン構築を目指す。
	交際費等の明確化による社内自浄活動の推進	○	以前からあった事前申請の仕組みを徹底させることで、社員への意識付けには役立った。	継続して、啓蒙活動を行うことで、強要や贈収賄の発生しない土壌を維持していく。

◆その他の活動報告 地域貢献を目指して :その 1)

イベント

福山城写生大会後援

水溜りの残る福山城

本部予定場所にも水溜り

当社の会長が代表を務める 明るい福山を考える会」の主催する 福山城写生大会」。

今年は大会前日が雨で、地面がぬかるみ、とても大会ができそうもありませんでした。

2008 年以来、14 回を数えるこの大会ですが、2回目の中止です。

来年はきっと良い天気に恵まれますように！

公園の環境保全

仲富池桜公園の植樹と剪定

桜満開の公園

剪定

植樹

仲富池桜公園は、当社の本社所在地である福山市大門町にある公園で、桜の名所となっています。

この桜は、当社の初代会長、原田靖夫が、地元の方々に喜んでいただければと、ため池の周りに桜の木を植えていったのが始まりです。

当社では、この初代会長の意思を尊重し、地元の皆様に愛される公園造りの一助との思いから、剪定作業や植樹など、できる範囲でのお手伝いを続けております。

現在では、その時の木々も老木と呼ぶに相応しいものになっています。しかし、桜は病気や剪定などの影響を受け易い弱い木です。

これからも専門家の協力を受けながら、緑化運動、地域美化活動を続け、美しい公園を造っていくとともに、この活動が地球温暖化防止の一助となればと願っています。

◆その他の活動報告 地域貢献を目指して :その 2)

スポーツ活動

＜卓球部＞

2019 年度後期日本卓球リーグ 2部優勝／全日本社会人ダブルス優勝

後期日本卓球リーグ
（優勝メンバー）

後期リーグ戦(1)

後期リーグ戦

前期リーグホームマッチ
（東京アート戦）

リーグ戦風景

全日本社会人ダブルス優勝

全日本社会人戦

全日本社会人戦

今年も日本卓球リーグでの成績は、
前期大会は、1部で 1勝 6敗の 8位。2部降格。
後期大会は、2部 A リーグで 4勝 0敗と優勝。1部昇格。
の結果でした。残念ながら、1部の壁は厚く、1年間 1部で戦い続けることが出来ませんでした。

1部では、リーグ戦 7試合の内、1試合を地元福山で開催することができます。

来年は、まずこのホームマッチでの初勝利。地元の皆様の期待に応えると共に、その余勢を駆っての 1部残留を目指し、部員一丸となって練習に励んでいます。

朝 8時から夕方 5時まで、一般社員と同じように働いた後、体育館に集まって練習する日々。

決して恵まれているとは言えない環境を撥ね退けての優勝。

もちろん、原田鋼業にとって初の全日本レベルでの優勝です。

地元の方々や取引先の皆様からもお祝いの言葉を賜り、社員全員が喜びを分かち合うことができました。

＜フットボールクラブ＞

中国リーグ 9位で再出発

中国サッカーリーグ

ゴール前で

中盤で

本社のある大門地区出身者を募ったことから始まったチーム。

チーム全員が普通の会社員です。決して恵まれた環境での練習とは言えませんが、懸命に頑張っています。

残念ながら、2年目となる中国リーグは厳しい結果に終わってしまいました。3勝 13敗 2分で降格。来年は、広島県社会人リーグでの出発となります。

再度、中国リーグ昇格を目指し、猛練習に励んでいます。

＜剣道倶楽部＞

地域に根差した活動

西日本勤労者剣道大会にて

試合風景

試合風景

今年も、西日本勤労者剣道大会、広島県実業団剣道大会に参加しました。

西日本勤労者剣道大会では、初のコード決勝に進出。敢闘賞を頂きました。

忙しい仕事の合間、子どもたちへの指導や、試合での審判など、地域に根付いた活動も継続しています。

◆その他の活動報告 世界の子供たちのために）

STEEL PRO

マラリア撲滅運動への参加

『JCI Nothing But Nets キャンペーン」

本社

大阪支店

東京支店

国際青年会議所と国連基金との共同事業の一つである『JCI Nothing But Nets キャンペーン」に、当社も参加しています。

写真のような自動販売機で飲料を買うと一定金額が寄付され、殺虫剤処理された蚊帳がアフリカに送られるという仕組みです。

2012年 3月より、この自動販売機を本社、大阪支店、東京支店の 3箇所に設置しました。

社員や近隣の方の協力もあり、義援金も 2012 年 33,796 円、2013 年 52,913 円、2014 年 57,254 円、2015 年 57,492 円、2016 年 59,577 円、2017 年 59,593 円、2018 年 55,230 円、2019 年 47,582 円と、継続して寄付することができました。

エコキャップ運動への参加

事務所で

イベント会場で

家庭で集めて

2012年から始めたばかりのエコキャップ運動ですが、本社及び各支店に回収 BOX を常設するとともに、会社のイベント等では会場に回収 BOX を設置。来訪された方々へも協力の呼び掛けを行って参りました。

最近では、わざわざ当社にキャップを持って来てくださる方も増えてきました。

皆様のお蔭で、始めた 2012 年に約 2,800 個でしたが、2013 年約 3,500 個、2014 年約 3,800 個、2015 年約 3,900 個、2016 年約 4,500 個、2017 年約 4,600 個と徐々に増えてきました。昨年 2018 年は猛暑の影響もあって約 5,200 個に増えましたが、2019 年は引き続く猛暑にもかかわらず、水筒持参が増えたためか約 4,900 個に止まっています。

地球温暖化は、我々の身近にもその影響が現れてきているのかもしれません。